

教育と文化

みんなで
考えよう
人権・同和問題
No. 249

このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

子育ては、人権のまちの基礎づくり

人権とは『すべての人が自分らしく生きていくために認められている権利』のことです。このことを踏まえると、生まれたばかりの赤ちゃんにも人権は保障されているという、当たり前の大切なことが見えてきます。大きくても、小さくても、命の値うちはみんな同じなのです。

さて、子どもが自分のことを自分の責任で決めることができるようになるまでは、大人が責任を持って育てなければいけません。『自分のことを自分の責任で決める』ということは、『自分らしく生きていく』ことです。『子育て』は子どもの『人権の根っこ』を育てる営みとも言えるのではないのでしょうか。

また、『子育て』は親だけができることではありません。なぜなら、子どもは家庭の中だけで育つわけではなく、学校や地域の中で、さまざまな人

たちに見守られて成長していくからです。『子育て』には困難も伴いますが、成長することが大切なことです。『人づくりはまちづくり』と言われますが、子どもが無限の可能性を秘めていることを考えると『子育て』は『人権のまちづくり』そのものだと言えることができます。

『地域で子どもを育てる』と言うと、何だか難しいことのように聞こえるかもしれませんが、私たちにもできることがあります。それは、子どもと向き合っただけで話しかけてあげることです。例えば、『こんな一言でいいのです。』
「かわいい」「大好き」「がんばっているね」。そんな『愛言葉』の積み重ねが、『人権のまちづくり』の基礎を育むことにつながっていくのです。子どもたちに『愛言葉』を贈りましょう。

郷土の文化財

伊万里の遺構シリーズ／埋葬遺構を中心として

● 問合先 生涯学習課文化財係 ☎ 221262

新シリーズの開始について

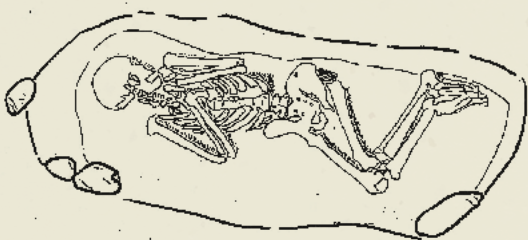
伊万里の文化財と言えば、大川内山や腰岳の印象が強く、鍋島や黒曜石に焦点が当たりがちですが、その他にも本市には興味深い遺跡の数々が存在します。

と副葬品を基に、遺跡の特徴を述べ、当時の社会像、被葬者像に迫っていきます。本市の遺跡の実態と魅力を多くの人たちに知ってもらう機会になればと考えています。

『伊万里の遺跡／埋葬遺構を中心として』と題し、市内の埋葬に関する遺跡の特徴をお知らせしていきます。

埋葬とは、一般的に、死者を土の中に葬ることとされています。原始古代において死者を葬るとき、鏡や武器、ガラス玉や耳飾りなどの装飾品と一緒に埋葬することがあり、これらの物を副葬品と呼んでいます。

本市においても副葬品は数多く出土しており、それらは、国内で出土する副葬品と比べると珍しい物が多数発掘されています。今回のシリーズでは、埋葬方法



埋葬のイメージ図(唐津市:『大友遺跡』縄文時代)